

ExtraNews in ネパール

「まさかあの国王が政権を手放すなんて信じられない。」今だから皮肉を言って笑える。最後のデモは勝利の行進となった2006年春。国王の直接統治から国政が民衆に返されたのだ。



2001年6月の王宮乱射事件後に即位したギャネンドラ国王の強権支配は悪化し、2005年2月には首相以下全閣僚を解任、議会を解散させ全権を掌握した。王の専政に全7政党は反発、国民も立ち上がった。デモは続き警察隊と衝突して15人死者も出た。反政府武装組織である毛派も王政廃止を唱え各地で軍と激突し国内は混乱を極めた。全国に広がった十万人規模のデモは3週間に及び、一致団結した全国民の民主化要求に、ついに国王は屈した。外院は復活し、最大政党ネパール会議派のコイララ氏が首相に就任した。毛派は一時停戦を表明し、新憲法制定に合意した。民政復帰したネパールは今後、王政の是非を含めた制憲議会、毛派との和平実現など課題は多い。

- ・ 常時ご寄付を集めています。
- ・ 事業のスポンサーになって下さい。
- ・ 国際協力に興味のある方、ご連絡下さい。
- ・ 様々な国際貢献を提案します。ご相談下さい。

群馬銀行本店 普通預金口座 2134150
郵便局 00160-5-591781

特定非営利活動法人T・M良薬センター事務局



〒371-0852
群馬県前橋市総社町総社1024
(Tel&Fax) 027-254-2325
(E-mail) office@tmrc.jp
(HP) www.tmrc.jp

ロンゾークラブ 11



T・M良薬センター ニュースレター

カンボジアプロジェクトスタート



ニュースレター第11号
平成19年4月28日
T・M良薬センター事務局
Tel・Fax: 027-254-2325
E-mail: office@tmrc.jp
http://www.tmrc.jp

カンボジア

現地事務所 OPEN

内戦の傷跡残るカンボジアで困難に直面する人々を支援する活動を、現地 NGO 団体と協同して続けていますが、この度協力者を得て首都プノンペンに TMRC の現地事務所が開設されました。

19 年 2 月 5 日から 9 日まで諸事業の基盤づくりのため現地調査を実施。小野理事長、作田会員、新井会員がプノンペンとその近郊を調査しました。



藤岡市の学生達が計画している学校建設の予定地を視察。市内から車で1時間の近郊ウドンはかつて17世紀から19世紀にかけて都があった。同じく近郊ポニャールはメコン川に沿って漁業、農業が盛んな村。中世から日本人村があった。

村内にある学校2校を視察。1校は日本人が個人で出資しているもので、教員11人の給与が年間200\$。もう1校はイオン・グループが建てた2階建ての学校で290人の生徒が通っている。政府から職員が派遣されるそうだ。



宗教・文化省を表敬訪問

MIN KHIN 宗教・文化省副大臣、KHUN HAING シニア・ミニスターと小野理事長が会談しました。他の出席者は UN DARY 宗教省総長、僧侶1名。会談の主たる内容は以下の通り

理事長：TMRC から自転車、服、家電、パソコンなどのリサイクル品をコンテナで船便で送る。については信頼のおける受入れ先を紹介願いたい。

副大臣：感謝する。商業協会など責任のある受け取り窓口を紹介する。

理：関税のかからないようお願いしたい。

副：関税はかからないようにする。

理：今回の輸送料は当方が負担する。次回以降は日本から送る家電や自転車を販売しその売り上げ金を輸送費に充当したい。

副：問題ない

理：本当に必要としている人、子供に届くようにしてもらいたい。

副：そうする。コンテナの明細を出してほしい。こちらにも誰に渡ったか詳細をリストにする。TM から明細が届き次第、早急にリストをメールで送る。

理：コンテナの明細はすぐにメールする。荷は3/15に日本から送る予定だ。

副：4月中頃にカンボジアに到着する。その際に、大臣も出席して式典をするので TM も出席してほしい。感謝状(証明書)も発行する。

理：日本の子供たちが空き缶やペットボトルを回収、換金しカンボジアの子供達の為に小学校を建てる活動をしている。候補地を紹介願いたい。

副：紹介する。学校や文房具が不足している。

理：協力したい。



握手を交わす副大臣と理事長。会談は終始友好的な雰囲気で行われました。

多くのボランティアの協力を得て、3/8に衣料品の仕分け作業、3/14, 15には自転車の解体・積み込み作業が実施されました。輸送協力団体：MTMジャパン、藤原運輸株式会社



「シャンティ・ボランティア会 (SVA)」を訪問。手束耕治上級アドバイザー - と会見。州ごとに全土を回って学校を建設している実績ある団体。群馬県藤岡市の学生が実働している「フジオカ・フレンドシップ・スクール」の現地実施団体として協力を得る。

SVA のアドバイスにより「名古屋日蓮宗青年会」が地雷関係で募った寄付金は、地雷により勉強に支障をきたしている子供達のために図書を贈呈することになりました。名古屋日青会の皆様ありがとうございました。



「妙法センター」を参拝する。内戦当時最前線であったダンカオ - 郡プレイプロ - ナ村 (70世帯) に内戦復興の拠点として建てられた。難民村に農業指導を行っている。チェッタ上人、斉藤大法上人、キエさんが常駐している。

理事長の要請を受けて正式にTMRCカンボジア事務所長に就任したジー・ソティラさん (35才) と奥さん (26才)。ソティラさんは数少ない日本語通訳のライセンスを持っている。2人とも日本語のガイドをしている。事務所は所長自宅。ソティラさんメールアドレス 012881872@mobitel.com.kh



ネパールプロジェクト

フォント完成

伝統文字学塾「リピタプグティ」支援事業で、2004 年末から作成している「伝統文字入力ソフト」のフォントが完成した。完成したのはランジャナ文字のフォントでその数約 7 千種。母音と子音と発音などを組み合わせて表示するのだが、1 文字でキーボードを 6 回叩くものもあり大変複雑。ソフト完成後は「学校や公的機関に無料で配布し、若い人たちに文字を知ってもらうことから始める」とのこと。さらに毎月セミナーを開いて生徒を募集する予定。「初めてパソコンでチラシを作りました。これから忙しくなりそう」と、今後の計画を話し合う講師達は意気揚々。

完成したフォントが基本となって他の文字フォントは短時間で出来上がるとのこと。現在学塾ではランジャナ文字とブジモ文字を教えている。フォント作成を手がけたラジブ = スレスタさんは、「90% 終わった。あとは「word」(世界共通の文書作成ソフト) 等で入力できるようにするだけ」と、溜息まじりに一安心。

リピタプグティの講師陣。ラジバイTMRC所長は一番右、技術者のラジブさんは後ろ。

748	749	750	751	1166	1167
764	765	766	767	1182	1183
764	765	766	767	1182	1183
780	781	782	783	1198	1199
780	781	782	783	1198	1199
796	797	798	799	1214	1215
796	797	798	799	1214	1215
812	813	814	815	1230	1231



シャカ族支援事業

「お釈迦様の子孫を支援しましょう」を合い言葉に、シャカ族手作りの手芸品を販売し収益を還元する事業で、(株)日蓮宗新聞社が正式に商品販売することを決定し、19年2月から全国各地で開かれる大会や研修会などで出張販売されている。売れ行きは好調で3月には2千個追加発注している。

日蓮宗新聞社で販売されているシャカ族手作りの「法輪ストラップ」
1つ300円
全国寺院を対象に参拝者へのお供物として紹介しているが、購入がそのままシャカ族支援につながるということで人気を集めている。
参加型仏教国際協力。



現在ネパールは全国的に仕事がなく、働かずに1日中遊んでいる人が町中にあふれている。若者の多くはカタールやバーレーンに出稼ぎに行き家族を養っている。「ネパール経済は中東石油国の強い外貨で成り立っている」、そう言って頭をかくのは観光業のかたわら

様々な国産品を外国に紹介している輸出商スメッド・シャカさん。「ネパールでは輸出するものには税金をかけないんです。国としても国産品を出したいと思っている。ここには設備や工場がないので、部屋をかりて職人が手作りする商品が沢山ある。発注が増えれば、シャカファミリーが潤い、みんなが潤うのです。」

ジャータカツアーを経営するスメッド＝シャカさん



国内での活動

放置自転車リサイクル第2弾 カンボジアの子供たちへ



前年度のミャンマー寄贈に続き、川崎市役所から放置自転車250台の譲渡を受け、今回はカンボジアへ贈ることに。川崎市塩浜保管所で2007年3月14日、日蓮宗神奈川一部社教会の協力を得て、トラックに積み込む作業が行われ千葉の倉庫に運送されました。自転車は想像以上にかさばり3台のトラックが行ったり来たり、お昼過ぎまでかかりました。

悪天候の予報がはずれ天気にも恵まれた翌日15日は日蓮宗東京南部社会活動部会の方々と全車解体、コンテナ積みこみ作業が実施されました。カゴやペダルがはずされた自転車が次々とコンテナに詰められ、最後には中古の家電製品や衣料品が隙間なく押し込まれ、夕方7時に封印されました。貨物容積55m³、重量5850Kgとなり3月20日東京税関より輸出許可がありました。21日千葉港から出港した船は4月8日カンボジア・シアヌーク港に到着し、コンテナは荷受人である文化・宗教省のもとへ届けられました。4月はカンボジアも選挙の月で忙しいため後日寄贈式典に出席することになっています。



ご奉仕いただいた神奈川一部社教会の皆様(敬称略: 安藤海潤、伊東泰仁、長井啓学、永田行雄、後藤泰敬、坂本昌宏、安藤秀岳、後藤泰行、齋藤憲明、福井清玄、吉田昌久、秋山智謙、平塚亮久、秋山智宏、安倍尚宏) 東京南部社会活動部会の皆様(敬称略: 渋谷幸道、安藤英明、大滝壽海、安藤正大、小松浄貴、石井隆進、壘慈恭、小林顕秀、石井常晴、小越豊明、内山智弘、池田真一、鈴木秀行) ありがとうございました。